



阿	尾	地	区	
ま	ち	づ	く	り
ふ	れ	あ	い	
ト	ー	ク		

コンビニ交付の実施に向けて



コンビニ交付サービスの検討に至った背景

- 平成27年度中に交付機とサーバーの更新が必要となる
- 住民ニーズの高まり
 - ・サービス拠点拡大の要望
- 行政サービスに対するニーズの多様化
 - ・銀行ATMの夜間休日利用、コンビニATMの定着
- 行政手続きの簡素化
 - ・申請手続きの簡素化への要望



コンビニ交付サービス実施による課題解決

導入効果① 発行拠点数の拡大

コンビニ交付サービスの最大の特徴は、
証明書交付拠点数が格段にふえます。



全国約46,000店舗



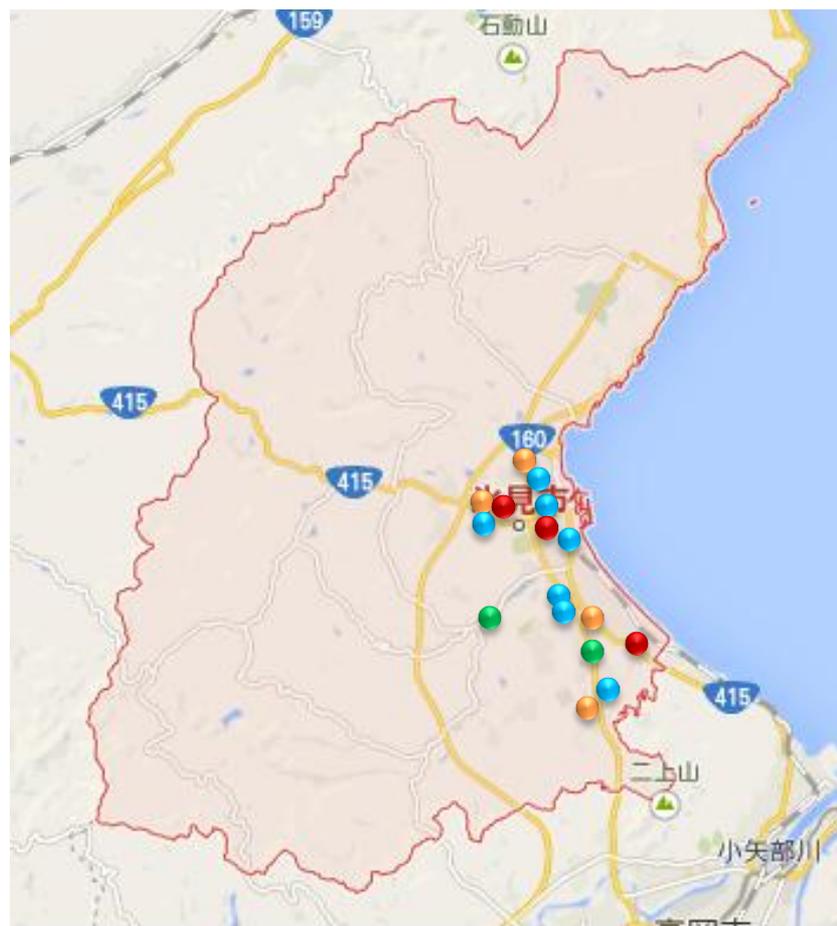
北陸三県約1,300店舗



富山県内約460店舗

導入効果① 発行拠点数の拡大

氷見市内のコンビニは合計16店舗
証明書を取得できる場所が大幅に拡大



- セブンイレブン (4店舗)
- ローソン (7店舗)
- ファミリーマート (2店舗)
- サークルKサンクス (3店舗)

導入効果② サービス提供時間の拡大

コンビニ交付サービス実施により
さらに提供時間を拡大します。

現在の氷見市証明書交付提供時間

	平日	土日・祝日
市民課窓口	08:30-17:15	-
証明書自動交付機	09:00-19:00	08:30-17:00

コンビニ交付サービス導入後の証明書交付提供時間

	平日	土日・祝日
市民課窓口	08:30-17:15	-
全国各コンビニ店舗	06:30-23:00	06:30-23:00

導入効果③ 戸籍証明書の対応

将来的には住民の証明書取得の機会は減るが、印鑑証明や戸籍証明は必要

高齢厚生年金の加給年金額の加算に関する手続

現状

住民票や所得証明書等の添付書類に基づき審査。

今後

住民票や所得証明書の添付書類の省略が可能。

児童扶養手当の認定申請

現状

住民票、所得証明書等に基づき審査。年金受給情報は、年金保険者に照会。

今後

住民票、所得証明書の添付を省略し、必要に応じて所得情報等は他市町村に照会。

SUZUKA

SUZUKA

SUZUKA

SUZUKA

さあ、

コンビニで証明書を
取ってみましょう♪



SUZUKA

SUZUKA

SUZUKA

SUZUKA

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 出席者紹介
- 4 昨年のふれあいトーク報告
- 5 地区の事業概要
- 6 質疑応答
- 7 地方創生について
- 8 意見交換会
- 9 閉会あいさつ

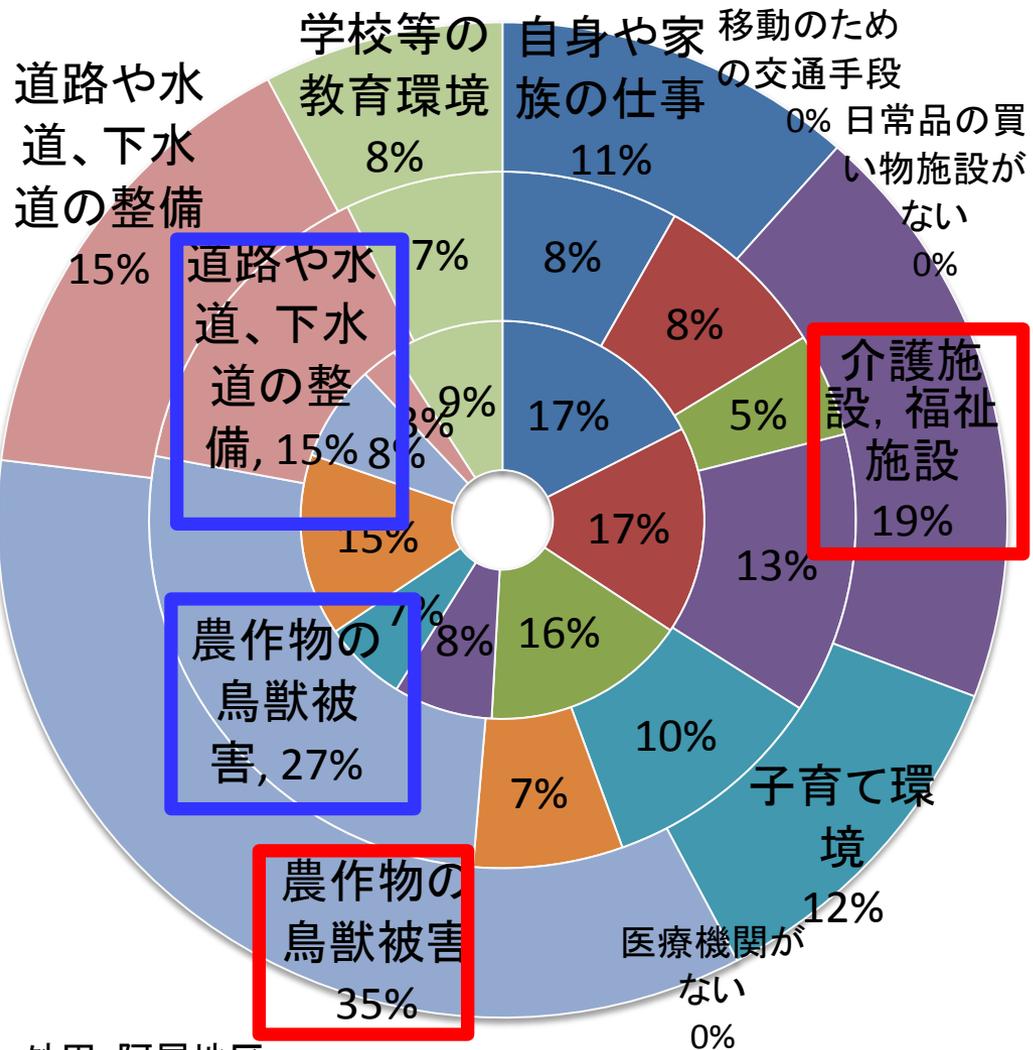
市長あいさつ

役職	氏名	所管部署等
氷見市長	本川 祐治郎	
市長政策・都市経営 戦略部長	高橋 正明	秘書・市民情報課 地方創生と自治への未来対話推進課 芸術文化マネジメント室 スポーツ文化マネジメント室 地域防災室
地方創生政策監	宮本 祐輔	地方創生総合戦略策定や氷見市人口ビジョンに関すること
防災・危機管理監	濱井 博文	自然災害や原子力災害対応に関すること
建設農林水産部長	福嶋 雅範	建設課 上下水道課 農林畜産課 いのしし等鳥獣害対策室 水産振興課
福祉介護課長	京田 武彦	社会福祉、介護保険に関すること
地域担当職員	小林 勉	(所属) 上下水道課
地域担当職員	清水 徹夫	(所属) 農業委員会事務局

昨年のふれあいトーク報告

困り事

日々の生活の中で、不便なことや不安に思ったこと、困ったことはありませんか？



外円:阿尾地区
中円:氷見市全体
内円:全国農漁村調査結果

関心事

ふれあいトークではどの項目に関心をお持ちですか？

- ・人口減問題
- ・イノシシの抜本的対策

人口減は職場がないことが県外、市外へ出ていくので、ベースの基本から検討して頂きたい。
各地区のそれぞれの問題に興味を持った。特にイノシシ対策は大変と思った。

阿尾城跡について

防災、過疎化など

今後の氷見市阿尾地区をどうしていくかということに関心を持っていきたいと思います。

対応済

- 701-阿尾森林公園の林道
 - 702-阿尾城址の土砂流出
 - 704-イノシシは防護柵より駆除 (継続)
 - 705-捕獲檻の貸し出し
 - 706-空き家が増え、老朽化
 - 709-選挙立候補者に補助
 - 715-携帯不感地帯の防災電話
 - 716-防災無線の内容は
- 25/1079-市道指針稲藪線の進捗 (進捗)

27年度内

- 707-防犯カメラの設置
- 710-国道稲積～阿尾に街灯
- 711-国道歩道と車道の境が壊れている
- 712-金属のフタがうるさい
- 713-出会いの場
- 714-防災ラジオの配布

28年度以降

- 25/1075-市役所跡地の利活用

可能

未定

国・県等市以外の事業

- 708-富山に向かう氷見線の乗り継ぎ

参考意見

不可能

703-阿尾城址崖の伐採

今年度の対策

○ハード

電気柵、ワイヤーメッシュによる侵入防止総延長 約400km
捕獲檻17基増設予定 総数109基

○ソフト（環境づくり）

エサや隠れ場所対策等の周知用チラシ、パトロール強化

捕獲数

○8/21現在 **319頭**（26年度 同時期119頭 年計412頭）

いのしし等鳥獣対策課 30-7088

氷見市の空き家対策

①空き家情報バンク制度

市内の空き家を売りたい・貸したい方に、空き家登録をしていただき、市外の方を対象に紹介

登録数 11軒 (8/11現在)

②セカンドライフ住宅取得補助金

空き家バンク登録者が、登録物件を購入した場合、購入費又はそのリフォーム費の1/2補助(上限50万円)

③定住促進家賃補助金

空き家バンク登録者が、登録物件を借りた場合に家賃の1/2補助(月上限2万円・2年間)

④田舎暮らし体験ゲストハウス

市内への移住を考えている方を対象にした、生活体験宿泊施設(最高6泊まで可)

⑤まちなか地区居住支援補助金

まちなかの居住者が、隣接する土地を売買した場合、購入者と売却者に補助

購入者1㎡につき2千円・上限20万円

売却者1㎡につき1千円・上限10万円

⑥住宅取得支援補助金

市内で住宅を取得または増改築をした場合、固定資産税相当額を2年間補助(上限50万円)

ただし対象者要件あり

⑦空き家紹介奨励補助金(H27新規)

空き家情報バンクに登録可能な空き家及びその所有者を市に紹介した方に対し、成約1件当たり2万円を補助

⑧フレンドリー定住モデルコース(H27新規)

主に「子育て世帯」を対象として、知りたい・感じたいことを1泊から2泊で体験していただく。参加費は無料。ただし、島尾ゲストハウスの宿泊費、食費や氷見までの往復交通費は参加者負担

⑨危険老朽空き家対策事業

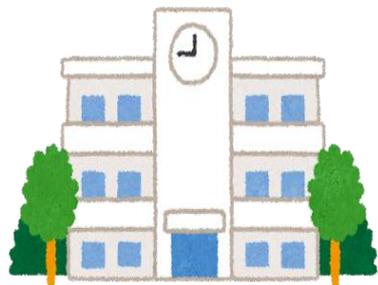
市街地で土地を含めて市に寄附のあった住宅を市が解体撤去

⑩危険老朽空き家対策事業補助金

廃墟になった空き家の取り壊し費用の2/3補助(上限30万円→**50万円**にアップ)

ただし地域活性化で土地利用することなどの要件あり

9月から防災ラジオを試験貸与いたします



学校



防災ラジオ20台



社会福祉施設



保育園



自治振興委員等



防災ラジオ
20台

＜防災ラジオの特徴＞

- ・平常時にはラジオとしてお使いいただけます。
- ・ラジオを聴いていても、強制的に防災行政無線の放送が割り込みで流れます。
- ・12時と17時にメロディーが流れます。
- ・電源が入っていなくても電池が入っていれば、防災行政無線の放送を聴くことができます。

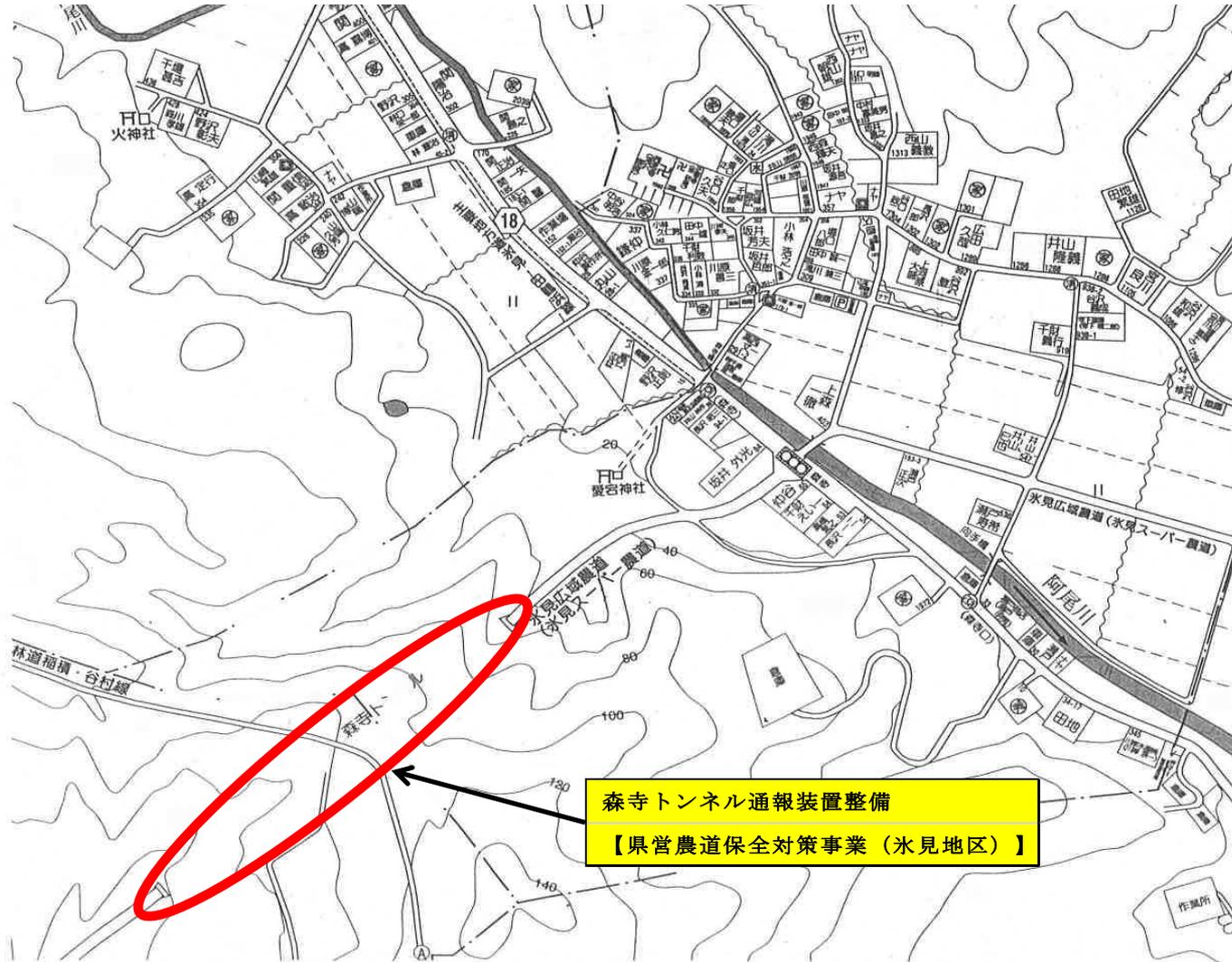
試験的に3ヶ月程度貸与します

→後日アンケートを実施しますので
ご協力をお願いします。

阿尾地区の事業概要

実施年度	工事名	工事場所	契約(予定)日	完成(予定)日	契約金額または予算額
H27	市道北八代堀田線(森寺トンネル)区画線修繕	森寺	H27.6.26	H27.8.31	496,800
H27	阿尾保育園屋根改修工事	阿尾	H27.6.23	H27.8.31	2,451,600
H27	市道北八代堀田線橋梁点検業務委託(森寺新橋)	森寺	H27.7.22	H27.11.30	196,000
H27	阿尾4号線防護柵設置工事	阿尾	H27.9月予定		1,155,000
H27	阿尾1号線側溝改修工事	阿尾	H27.10月予定		1,500,000
H27	森寺トンネル通報装置整備事業(県営事業負担金)	森寺	継続事業		17,000,000
H27	ため池・佛供田池耐震性調査事業	北八代	H27.8予定		6,000,000
				H27計	28,799,400

森寺トンネル通報装置整備事業(県営事業負担金)



実施年度	実施事業名	具体的な内容及び箇所	補助金等金額 または予算額	担当課	備考
H27	健康ウォーキング	地区一般住民を対象としたウォーキング教室を実施(7月26日)	5,000	健康課・健康づくりボランティア連絡協議会教育委員会	
H27	健康教室	地域の健康づくりの意識を高め実践に結びつけることを目的に講義、実践を行なう。(2月)	職員対応	健康課	
H27	三世代ヘルシークッキング	小学生とその家族を対象に三世代ヘルシークッキングを開催し、バランスのよい食事の大切さや食習慣について学んでもらう。(8月6日)	7,000	健康課・健康づくりボランティア連絡協議会	
H27	介護予防事業 高齢者レクリエーション教室	高齢者を対象にレクリエーション教室を実施することで、閉じこもりや要介護状態になることを予防する。(7月11日(阿尾)、日時未定(指崎))	2,100	健康課・健康づくりボランティア連絡協議会	
H27	介護予防事業 高齢者元気ハツラツ教室	高齢者がいきいきと自立して生活できるように、食生活改善に関する知識の普及を図る。(阿尾)	3,000	健康課・健康づくりボランティア連絡協議会	
H27	男性料理教室	男性を対象に教室を開催し、バランスのとれた食生活について知識、調理技術の普及を図る。(12月6日)	10,000	健康課・健康づくりボランティア連絡協議会	
H27	健診PR活動(旗立て)	地区内に健診PRの旗をたて、住民健診の受診勧奨を行なう(7月~9月)	2,000	健康課・健康づくりボランティア連絡協議会	

実施年度	実施事業名	具体的な内容及び箇所	補助金等金額 または予算額	担当課	備考
H27	市単土地改良事業費補助金	土地改良支援事業〔指崎〕水路布設	100,000	建設課	
H27	道路の原材料支給事業	指崎 砕石 20 t	4,320	建設課	
H27	道路の原材料支給事業	森寺 砕石 12 t	2,542	建設課	
H27	中山間地域等直接支払	農業施設の整備(農道、水路等の補修)営農活動(農業機械購入等)への支援、森寺(1,330,780円)北八代、(1,427,749円)	2,758,529	農林畜産課	
H27	里山再生整備事業	県民参加の森づくり(指崎)	100,000	農林畜産課	
H27	多面的機能支払交付金	農地保全活動(草刈り・泥上げ等)農村環境保全活動(花壇の造成等)へ支援、阿尾(2,196,480円)、指崎(1,100,070円)、北八代(1,129,440円)	4,425,990	農林畜産課	
H27	環境保全型農業直接支払	環境保全に効果の高い営農活動への支援(化学肥料・農薬の5割低減+冬期湛水など)指崎(1,380,000円)、北八代(768,800円)	2,148,800	農林畜産課	
H27	氷見市有害鳥獣被害防止対策補助金	電気柵 森寺 3件	137,000	いのしし等鳥獣害対策室	
		H27計	9,570,319		

質疑応答

地方創生について

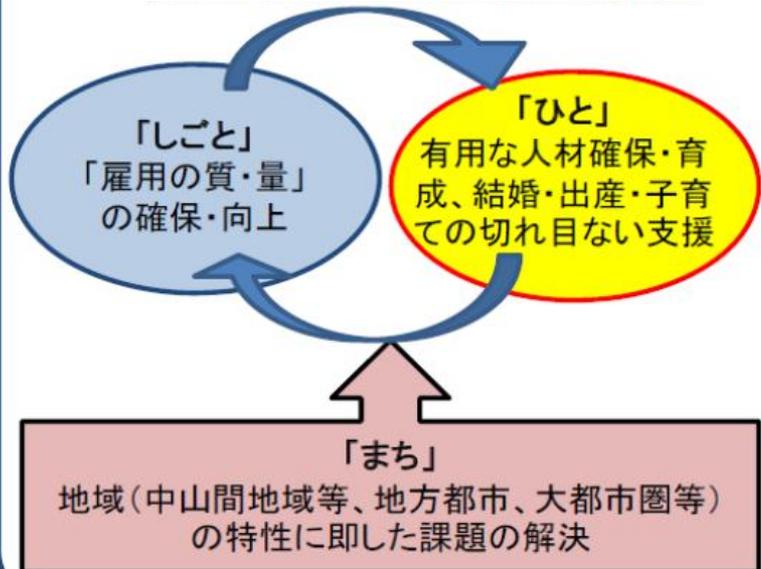
まち・ひと・しごと創生に関する基本的考え方

【基本的考え方】

【基本的視点】

- ①東京一極集中の歯止め
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望実現
- ③地域の特性に即して課題解決

「しごと」と「ひと」の好循環、
それを支える「まち」の活性化



【過去の政策検証】

- 「縦割り」構造
 - ・政策手法が似通い、施策の重複や小粒な事業の乱立
- 「全国一律の手法」
 - ・使用目的が縛られ、地域特性や主体性が考量されない
- 「バラマキ」
 - ・客観的な成果検証と運用の見直しメカニズムが不足
- 「表面的な」取組
 - ・対症療法的施策は構造的な問題への対処に改善の余地
- 「短期的」な成果
 - ・短期間で変更・廃止を繰り返す施策が多い

【政策5原則】

- 自立性** 地方自治体・民間事業者・個人等の自立につながる
- 将来性** 地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援
- 地域性** 各地域は地方版総合戦略を策定、国は利用者の側から人的側面を含めた支援を実施
- 直接性** ひと・しごとの移転・創出やまちづくりを直接的に支援する施策を集中的に実施
- 結果重視** 短期・中長期の数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証、改善

「地方人口ビジョン」・「地方版総合戦略」の意義 —人口減少時代の新たな行政革新—

「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定プロセス

1. 地域の現状・将来に関するデータ分析—「分析企画」

- ・客観的データに基づく戦略策定
 - ・行政と地域住民の意識共有
- 「地方人口ビジョン」
「地域経済分析システム(RESAS)」

2. 「積極戦略」と「調整戦略」の同時対応—「複眼思考」

- ・「積極戦略」:人口減少の歯止めのための戦略(人口流出防止、出生率向上)
- ・「調整戦略」:人口減少に即した戦略(効果的・効率的な行政・まちづくり)

3. 地域の「産官学金労言」の参画—「調整結集」

- ・政策の「縦割り」を排除して、各分野の政策・事業・人材を結集
- ・幅広い各層(女性や若者、外部人材も)の意見汲み上げ、産業・学界・金融・労働・マスコミの参画
- ・「縦割り」の排除⇒各分野の政策・事業の「組み合わせ」

4. 「数値目標」の設定と5か年の「PDCAサイクル」の徹底—「成果重視」

- ・5年先の「数値目標(成果目標)」設定。その後、毎年効果検証、的確な政策見直し
- ・「予算重視」から「決算・成果重視」へ

5. 市町村間の連携—「広域連携」

- ・広域圏などで複数市町村が総合戦略を共同作成
- ・個別事業(広域観光、都市農村交流など)での市町村連携

<地方人口ビジョン>

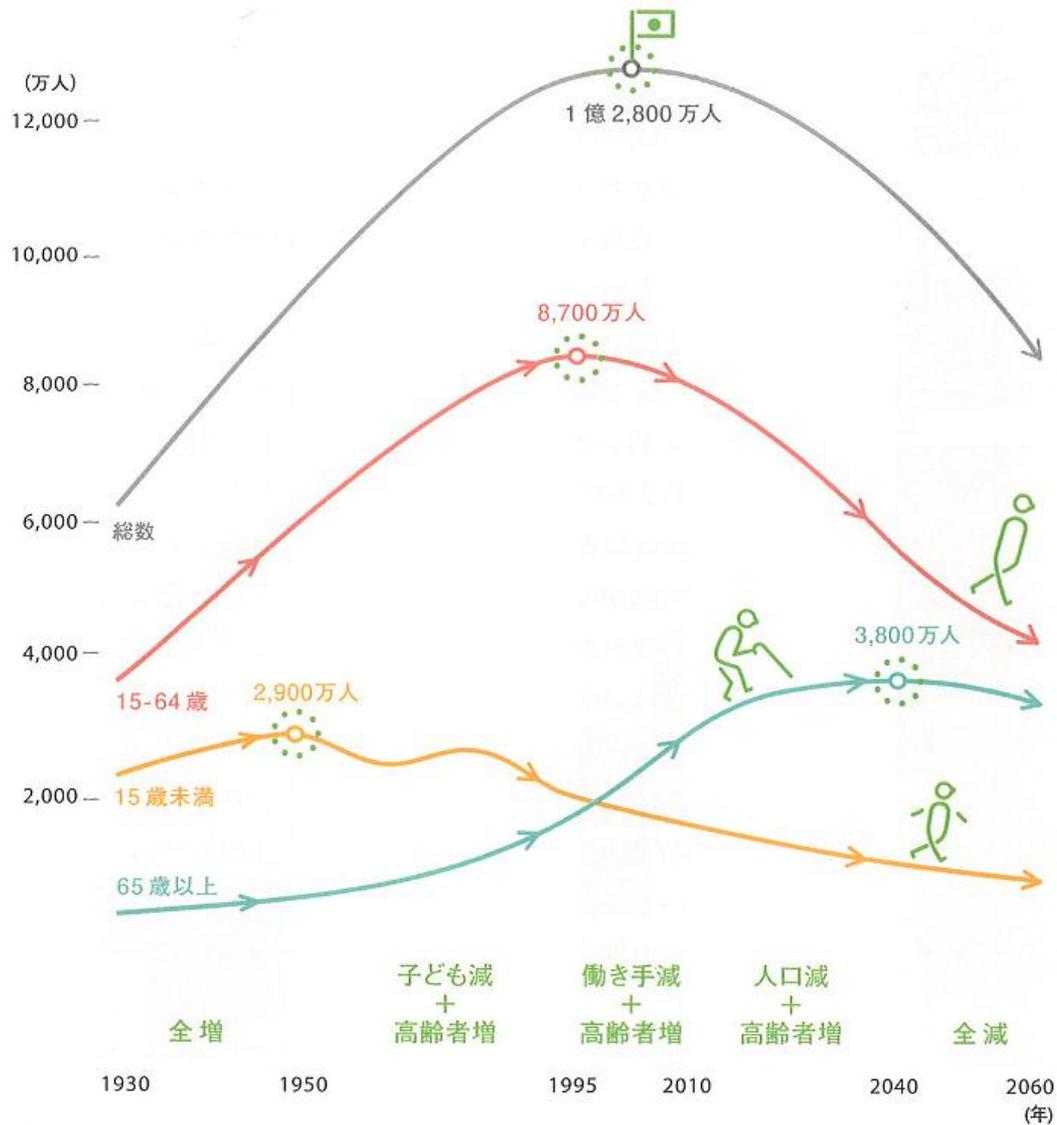
- 人口の現状分析
- 人口の将来展望

<地方版総合戦略>

- 基本目標(成果目標)
- KPI(重要業績評価指標)

- 各分野の施策

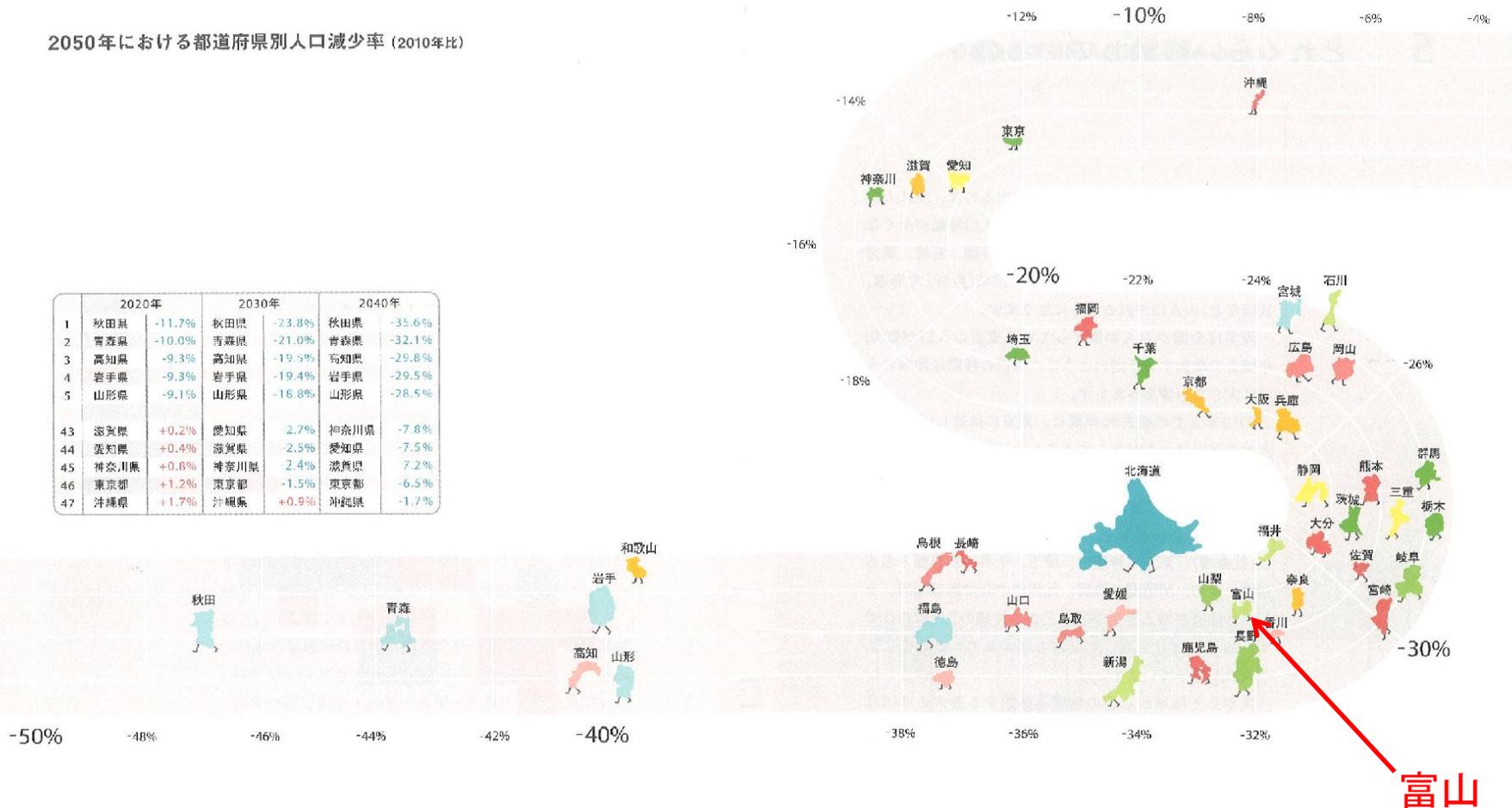
3区分年代別人口の推移 (2012年1月推計)



出典：人口減少×デザイン 著 筧 裕介

2050年における都道府県別人口減少率 (2010年比)

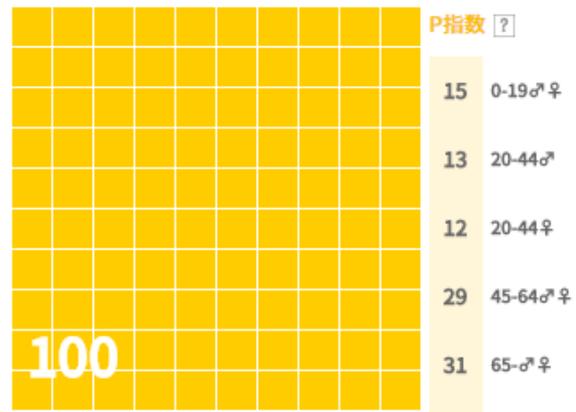
	2020年		2030年		2040年	
1	秋田県	-11.7%	秋田県	-23.8%	秋田県	-35.0%
2	青森県	-10.0%	青森県	-21.0%	青森県	-32.1%
3	高知県	-9.3%	高知県	-19.5%	高知県	-29.8%
4	岩手県	-9.3%	岩手県	-19.4%	岩手県	-29.5%
5	山形県	-9.1%	山形県	-18.8%	山形県	-28.5%
43	滋賀県	+0.2%	徳島県	2.7%	神奈川県	-7.8%
44	愛知県	+0.4%	滋賀県	-2.5%	愛知県	-7.5%
45	神奈川県	+0.8%	神奈川県	2.4%	滋賀県	7.2%
46	東京都	+1.2%	東京都	-1.5%	東京都	-6.5%
47	沖縄県	+1.7%	沖縄県	+0.9%	沖縄県	-1.7%



人口減少 × デザイン 富山県 氷見市

地域と日本の大問題を、データとデザイン思考で考える。

2010

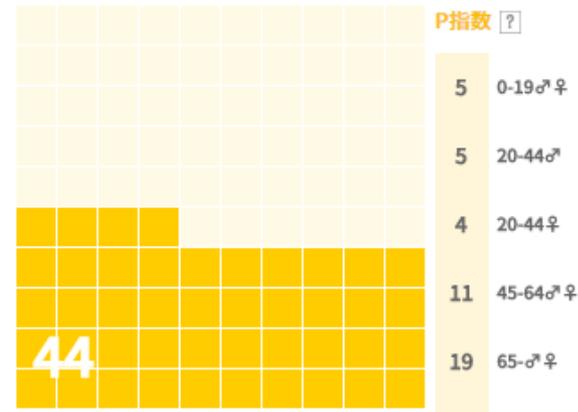


+

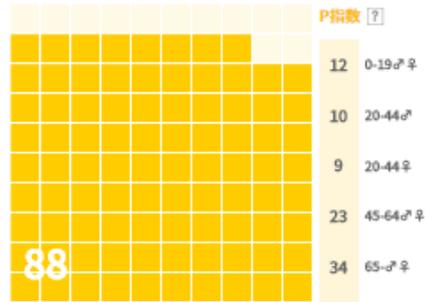
なんの対策も
行わない

=

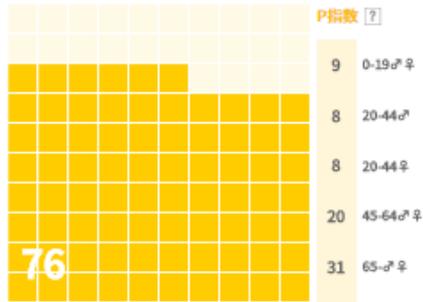
2060



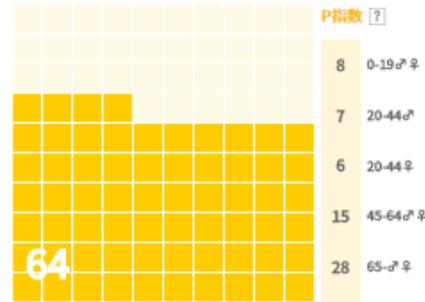
2020



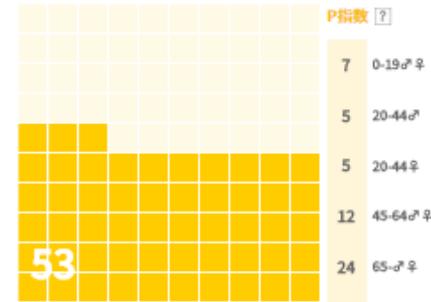
2030



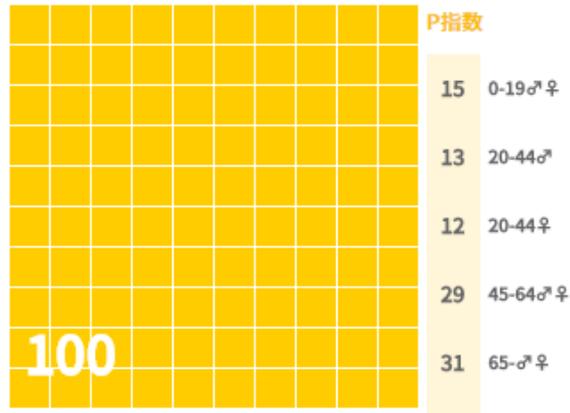
2040



2050



2010



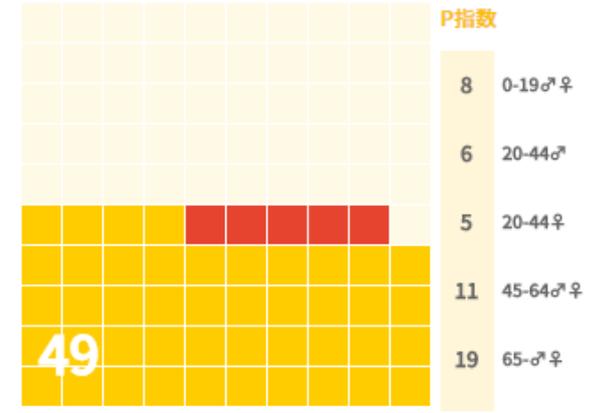
合計 約51,000人

人口減少対策

合計特殊出生率
1.37 → 1.80



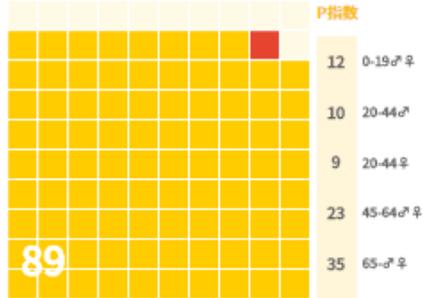
2060



合計 約23,000人 → 25,000人

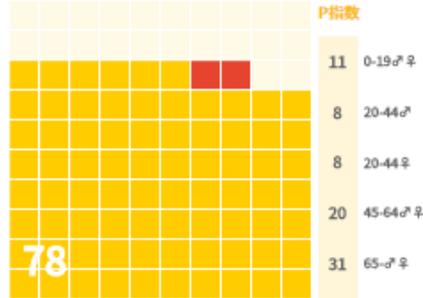
2014年実績値より
合計特殊出生率を1.37から**1.80へ伸ばす**
転入者数(20-49歳)613人のまま
転出者数(15-24歳)425人のまま

2020



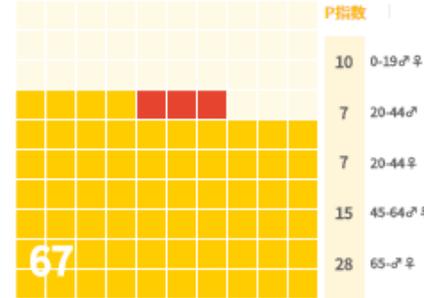
合計 約45,000人 → 45,000人

2030



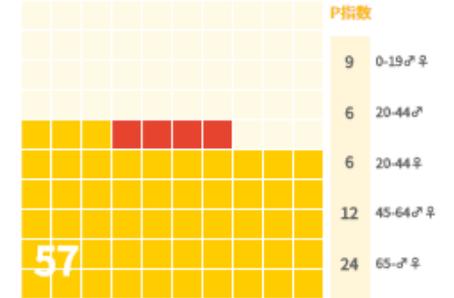
合計 約39,000人 → 40,000人

2040



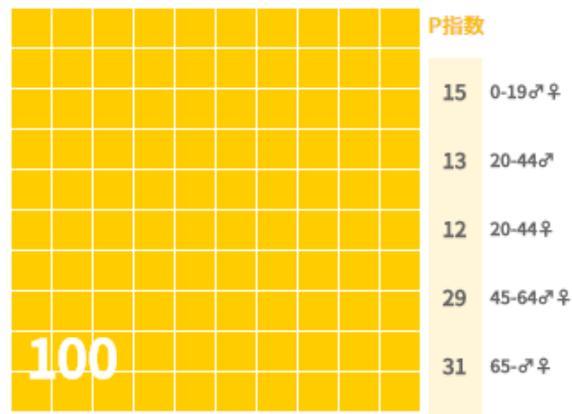
合計 約33,000人 → 34,000人

2050



合計 約27,000人 → 29,000人

2010

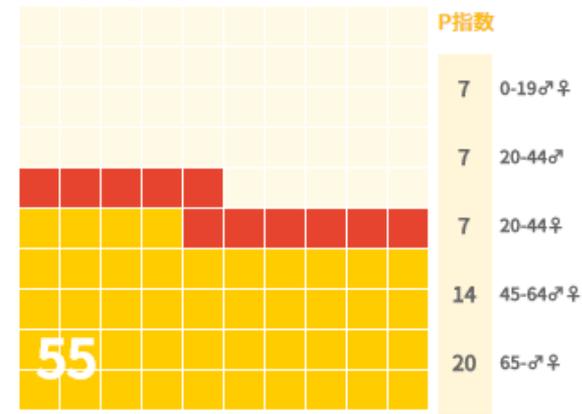


合計 約51,000人

人口減少対策



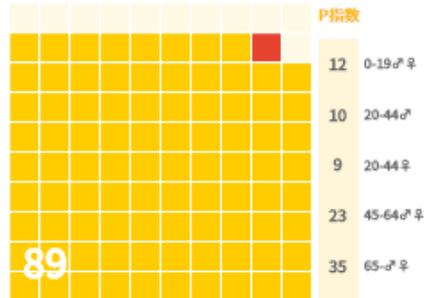
2060



合計 約23,000人 → 28,000人

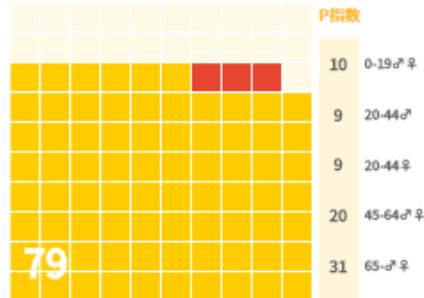
2014年実績値より
 合計特殊出生率を1.37のまま
 転入者数(20-49歳) **613人 → 715に増やす**
 転出者数(15-24歳) 425人のまま

2020



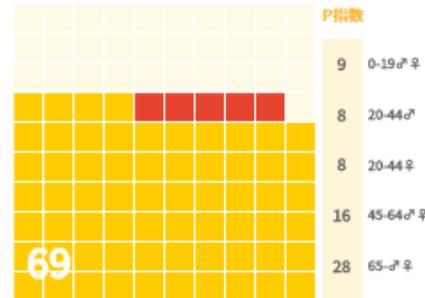
合計 約45,000人 → 46,000人

2030



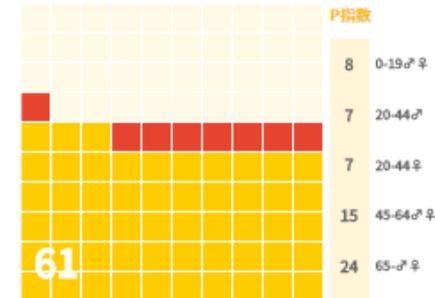
合計 約39,000人 → 40,000人

2040



合計 約33,000人 → 36,000人

2050

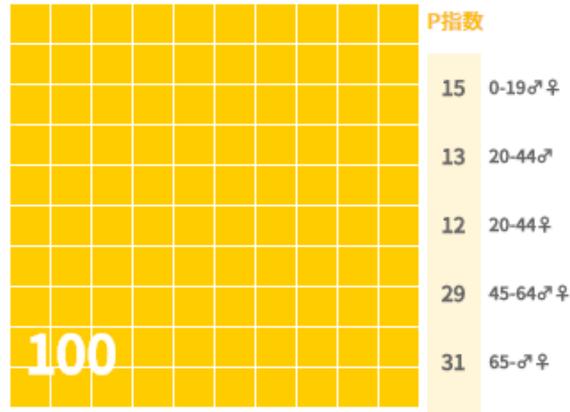


合計 約27,000人 → 31,000人

人口減少 × デザイン 富山県 氷見市

地域と日本の大問題を、データとデザイン思考で考える。

2010



合計約51,000人

人口減少対策

合計特殊出生率を

1.37

にする

転入者数(年間)を

0人

増やす

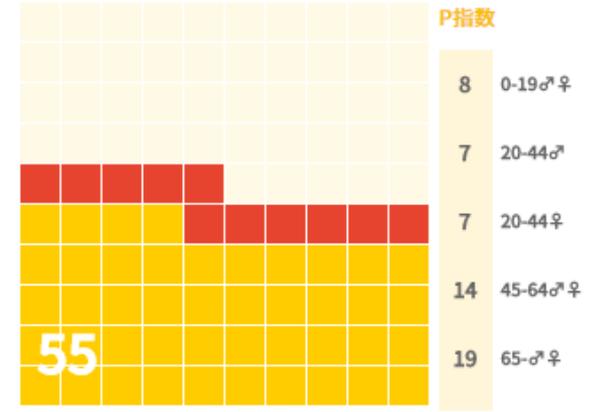
転出者数(年間)

100人減らす

減らす

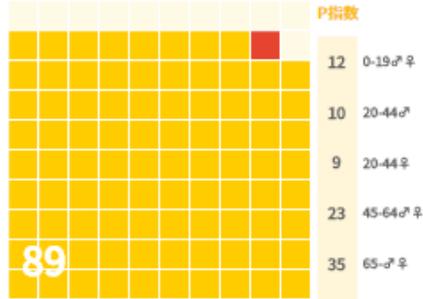
2014年実績値より
合計特殊出生率を1.37から1.80へ
転入者数(20-49歳)613人のまま
転出者数(15-24歳)425人→**325人まで減らす**

2060



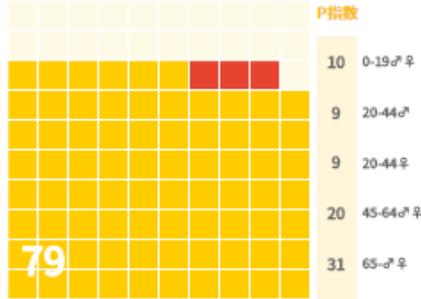
合計約23,000人 → 28,000人

2020



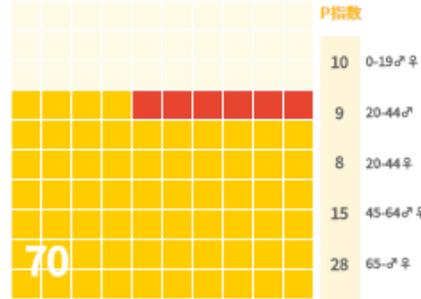
合計約45,000人 → 46,000人

2030



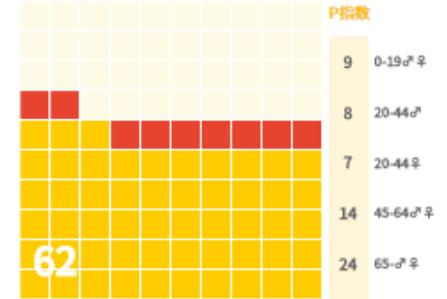
合計約39,000人 → 40,000人

2040



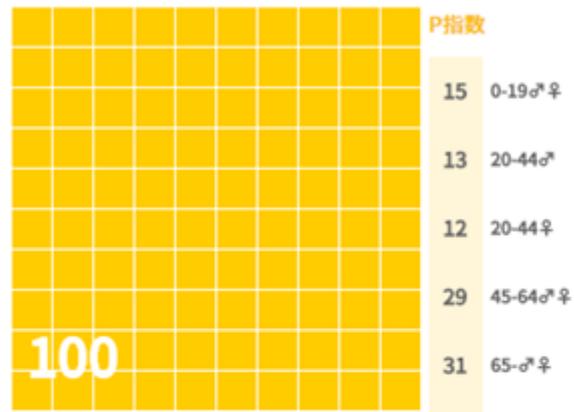
合計約33,000人 → 36,000人

2050



合計約27,000人 → 32,000人

2010



合計約51,000人

人口減少対策

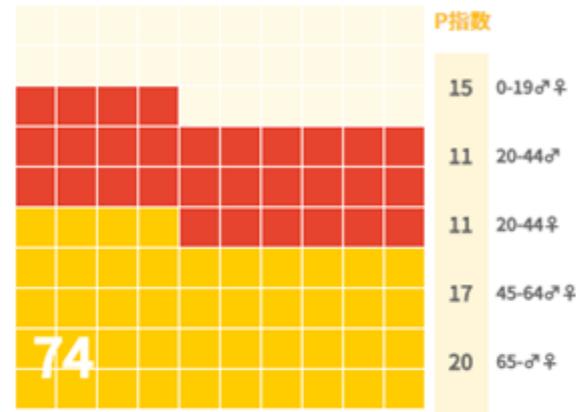
合計特殊出生率
1.37 → 1.80

転入者数（年間）
102人増やす

転出者数（年間）
100人減らす



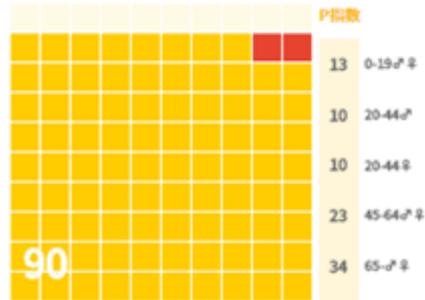
2060



合計約23,000人 → 38,000人

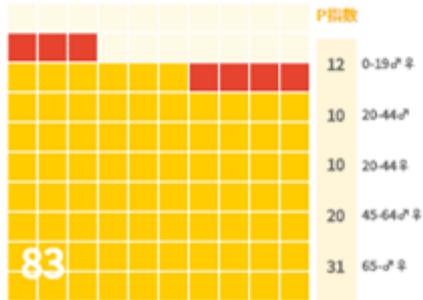
2014年実績値より
合計特殊出生率を1.37から**1.80へ伸ばす**
転入者数（20-49歳）**613人→715に増やす**
転出者数（15-24歳）**425人→325人まで減らす**

2020



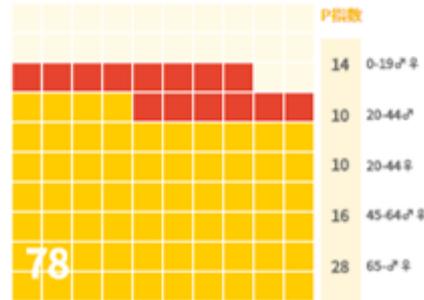
合計約45,000人 → 46,000人

2030



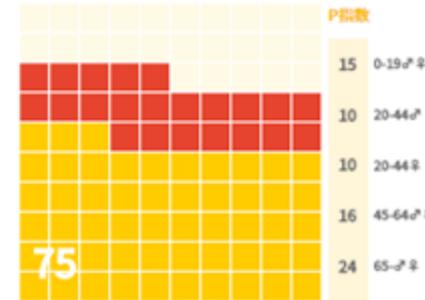
合計約39,000人 → 42,000人

2040



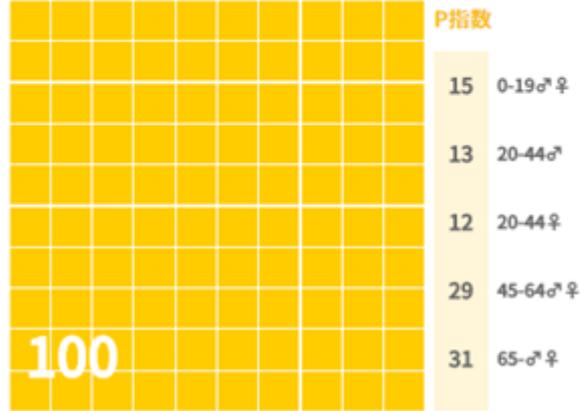
合計約33,000人 → 40,000人

2050



合計約27,000人 → 38,000人

2010



合計約51,000人

人口減少対策

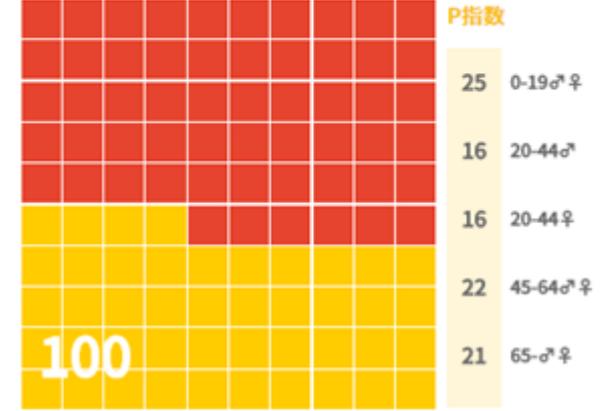
合計特殊出生率
1.37 → 2.10

転入者数 (年間)
180人増やす

転出者数 (年間)
180人減らす



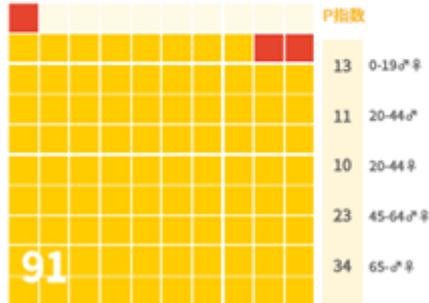
2060



合計約23,000人 → 51,000人

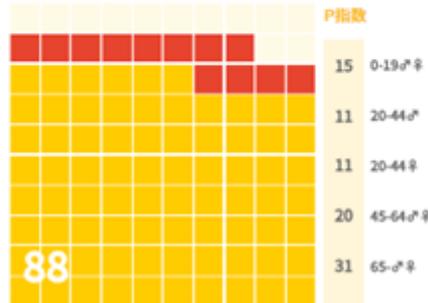
2014年実績値より
合計特殊出生率を1.37から**2.10**へ伸ばす
転入者数 (20-49歳) **613人→793人**に増やす
転出者数 (15-24歳) **425人→605人**まで減らす

2020



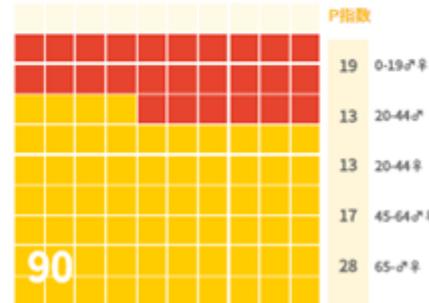
合計約45,000人 → 47,000人

2030



合計約39,000人 → 45,000人

2040



合計約33,000人 → 46,000人

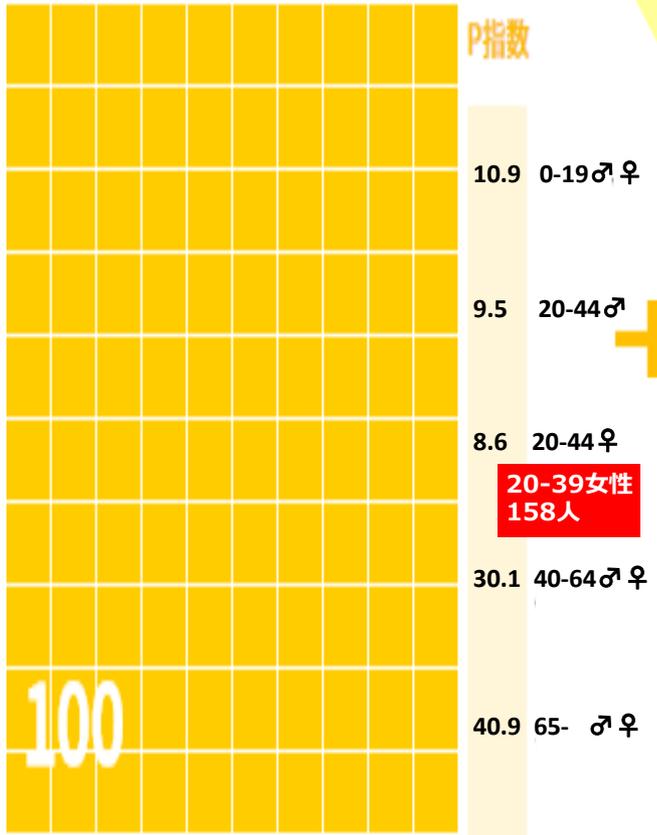
2050



合計約27,000人 → 48,000人

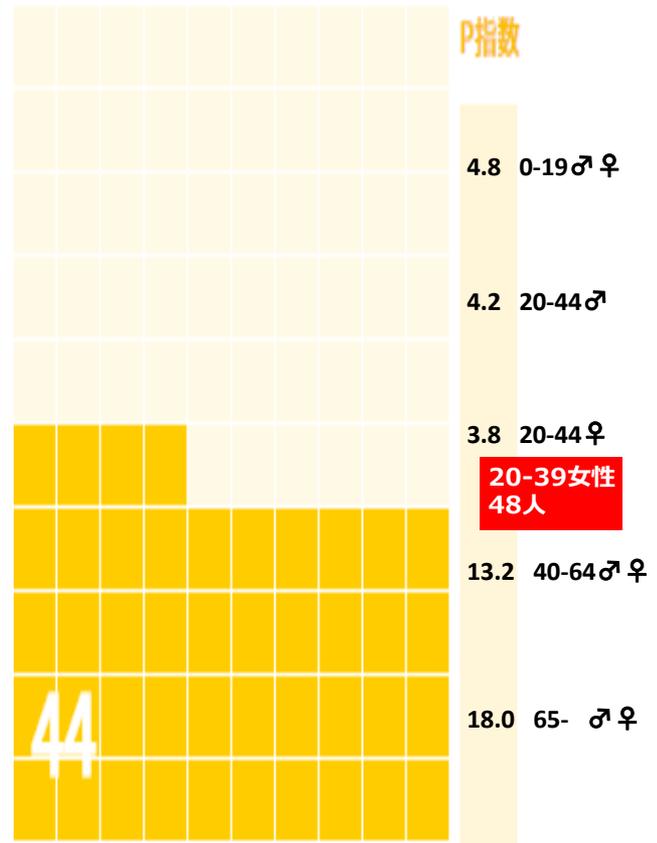
阿尾地区 人口1,824人

2010



なんの対策も行わない

2060

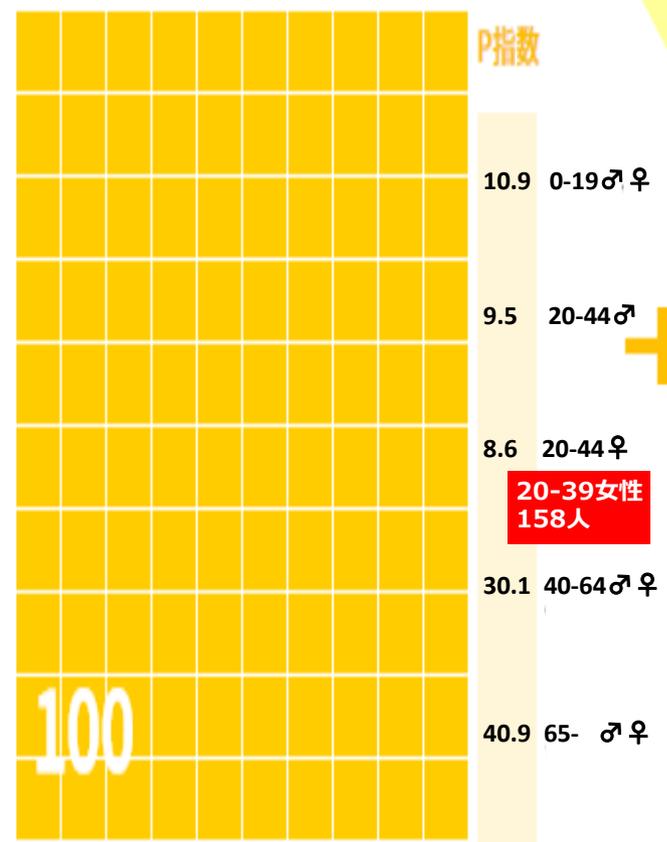


阿尾地区 人口802人 (推計)

出典：issue+design、住民基本台帳を基に推計

阿尾地区 人口 1,824人

2010

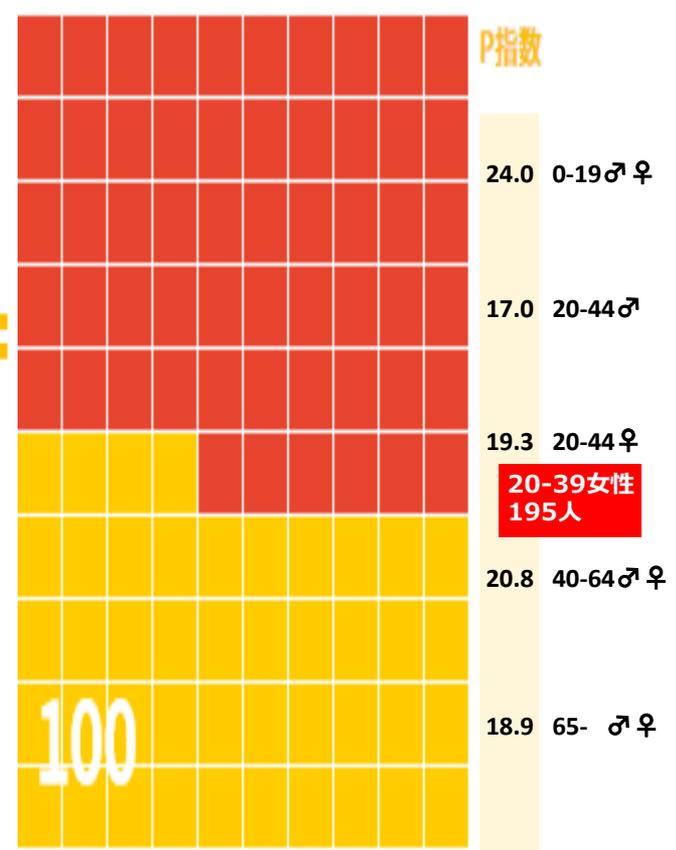


合計特殊出生率
2.1 とする

年間転入者数(20-49歳)
6.4人増やす

年間転出者数(15-24歳)
6.4人減らす

2060



阿尾地区 人口 1,824人

出典：issue+design、住民基本台帳を基に推計

地方創生に向けて、皆さんの知恵やご意見を！ 井戸端会議をしてみよう！

- ① 4～5人でグループをつくります。
- ②各グループに市職員が入り、皆さまのご意見を記録します。
- ③いただいたご意見は全体で共有し、今後、地方創生総合戦略を策定する際の参考意見とさせていただきます。

Q 1. **阿尾**地区へ、20～49歳の転入者を毎年6.4人増やすために、どんなことをすればよいでしょうか。

Q 2. **阿尾**地区から、15～24歳の転出者を毎年6.4人減らすために、どんなことをすればよいでしょうか。

意見交換

阿尾地区代表